

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1)

Table with 2 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日. Values include 0171000607, 株式会社 健康会, グループホーム えべつ, 千069-0846 江別市大麻桜木町26番の5, 2021年2月26日, 令和3年4月6日.

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, URL address: https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0171000607-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日. Values include 企業組合グループ・ダイナミクス総合研究所 介保調査部, 札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階, 令和3年3月12日.

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

移転しコロナ禍で制限が多く外部との交流が出来ない中、入居者様の安心・安全・安らぎと、ご家族の安心を第一に、感染対策に努めています。コロナ禍においても、『ご家族との時間を大切に』と考え交流が出来るよう、電話・手紙・LINEビデオ通話・窓越し面会など工夫しています。日常の様子はメールや手紙・LINEでお知らせするようにしています。法人内で重点としている～人間力を高める～を基に、GHえべつでは、『思いやりの笑顔と優しい声掛け』を全職員が意識するよう努め、“倫理に基づいた介護力育成と、入居者様の人格を尊重した質の高い支援”を目標に掲げています。入居者様の現在の身体機能や活動を維持できるような支援、意欲が高まるような支援を、法人内他職種とも共同し提供しています。より良い支援の為知識・技術の習得に努め、医療との連携を密に看取り介護も行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、令和2年5月にJR江別駅近郊から新築・移転し、幹線道路から緩やかな斜面を少し入った住宅地に位置する2階建て2ユニットのグループホームである。近くには緑が多く、大きな公園やホームセンターもある。法人はグループホームを始め、医療系有料老人ホーム、訪問介護、通所介護、訪問看護など旭川市を拠点に札幌市や道内、首都圏にて積極的な高齢者介護の支援を行っている。当事業所は、母体が医療法人な為、24時間の医療支援体制が構築されており、重度化や終末期にも積極的に対応している。また、法人内のPTと連携して生活機能向上連携支援を行っており、特に外部事業者のマッサージ師によるリハビリの運動や散歩など個別の支援も行っている。認知症高齢者介護の事業所として、これからも期待したい。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取組の成果 (with sub-column ↓該当するものに○印), 項目, 取組の成果 (with sub-column ↓該当するものに○印). Rows 56-62 contain evaluation data for various service outcomes.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、各フロアー目に触れる場所に掲示している。常に意識できるようにしている。 月1回事業所会議においては、理念唱和は定着しており、“理念を考える”の職員発表で、意識統一を図るようにしている。	月一回の事業所会議において理念唱和を実施するほか、職員がそれぞれ理念について発表を行い意識の統一を図るようにするなど、その理念を共有して実践につなげるよう工夫している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	移転時、自治会から行事参加のお誘いを頂いていたが、コロナ禍で地域交流は出来ていないが、毎月広報誌の回覧で情報発信を行っている。	ホーム通信を町内会で回覧してもらい町内の方々にも理解いただけるよう努めている。町内の大きなお祭りもありコロナ禍が落ち着いた後交流も進められるよう検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で地域への発信は出来ていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で開催できていないが、運営状況、入居者様の様子など報告書の形を取った。アンケートでご意見ご要望を頂くよう働きかけた。	コロナ禍により外部の方の参加は出来なかったが、職員での書面会議は定期的に実施し議事録を作成している。家族にアンケートと共に議事録を送付し、頂いた意見はサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課には、ほぼ毎月計画作成担当者・管理者が書類等受け取りなどに出向き顔なじみの関係が出来るよう意識している。また電話などでも相談をしている。	提携医である大麻クリニックに包括支援センターがあり、日頃から情報交換しており、認知症推進委員にも広報誌を送っている。市の介護保健課にも出向き、顔なじみの関係を築くよう努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1回、身体拘束適正化委員会を開催し、身体拘束の理解意識付けの場としている。また、事例検討など研修の場を設けている。	身体拘束適正化委員会を設置し3ヶ月に1度委員会を開催している。身体拘束やスピーチロック等の無い様、職員間でも気をつけながら身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされないことがないよう注意を払い、防止に努めている	(株)健康会では、リモートでの研修があり参加している。また、GH内でもグレーな介護について話し合いの場を設け意識統一を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度のリーフレットの閲覧している。個々の必要性を話し合い、利用に繋がった方もおられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に、契約書に目を通していただけるよう郵送または手渡しして大まかな説明をしている。入居当日も、不安や疑問をお聞きするよう努め十分な説明を心掛けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置しているが、コロナ渦で来訪が無く投函されていない。GHに関りのある方々へ毎月広報誌を送付しFAX用紙でご意見を頂くようお願いした。2通返信を頂いている。	毎月作成の広報誌をご家族に送る際にファックス用紙も同封し、ご意見を頂くようお願いをしたり、可能なご家族とはLINEでのやりとりを実施し、頂いた意見を運営に反映させるよう努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に二回面談の機会を確保している。カンファや日頃の業務内でも意見や提案を受け、対応している。エリアマネージャーとの面談の時間も設けるようにした。	年に2回の面談の他、月一回の全体会議や必要に応じてエリアマネージャーとの面談も実施している。法人内に設置されている教育委員会・安全委員会・感染症対策委員会は職員の意見や提案を反映させられるような仕組みとなっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は年に2回管理者と面談があり、その内容に応じマネージャー面談に繋げている。個々の働き方を尊重した環境を整えるよう、年2回の面談にこだわらず、話し合いの時間を設けている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修に定期的に参加してもらっている。GH内でも、職員間でのレクチャーがあり、介護技術向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	コロナ渦で市内GH会(あおいの会)での交流が出来ていない。GH会(あおいの会)管理者間では、電話やメールでの情報交換をしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談などの情報を職員間で共有し、ご家族からの聞き取りも細かく行い、ケアに役立てるようにしている。入居後は積極的に働きかけ、不安なく過ごせるよう傾聴に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談でご家族にも不安点・要望などをお聞きし、ご家族・職員が共に問題解決に向け協力できる関係ありたいとお伝えしている。ご家族から、気楽に要望等を受けられるよう、メールやLINEを活用している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の情報と入居後3～4日は詳細な行動記録で何を必要とするか見極めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、食器洗い・洗濯物たみなど、それぞれが出来る範囲でお手伝いをして下さっている。 一部の入居者様は自ら率先して「するよ！」と声掛けくださる。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居説明時に、ご家族・職員が共に問題解決に向け協力できる関係ありたいとお伝えしている。 外部通院はご家族対応で協力を頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ渦で、馴染みの場所への外出、面会は出来ていないが、手紙やLINEビデオ通話、窓越しの面会など対応している。 誕生日などご家族からの贈り物が届く。	家族にこちらから電話をかけ通話をしてもらう他、LINEを通じこまめな連絡を取るなど、なじみの方との関係継続に努めている。広報誌にも手紙や電話の依頼を記載し、本人と家族との継続の関係づくりを支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	良好な関係維持のため、職員が必要に応じ間に入り潤滑剤となっている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、お電話を頂き経過を知ることが出来ている。必要に応じ、相談も傾聴するように努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人やご家族から意向を伺い、カンファレンスで、思いに配慮した望ましい支援について検討し、意向の把握、情報共有に努めている。	本人や家族からの意向を伺い、カンファレンスで検討するほか、日常生活の中で思いや希望を把握するようにし、本人の望む支援に繋がれるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報シートと、会話の中で今までの生活歴、環境を知るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	GHでの共同生活の中で一人一人観察し心身状態、有する力の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の様子をケアプランに沿って記録し、モニタリング及びカンファレンスでの意見交換や、医療からの助言などを基に家族を含めたサービス担当者会議を行い、ケアプランに反映させている。	医療からの助言をもとに、月に1度来訪の理学療法士とも連携をとりながらケアプランに反映させている。家族にも評価を伝え、次のケアプランへの意向を伺うようにしている。モニタリングは毎月行いケアプランも3ヶ月に1度作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活シートに活動状況・表情・言葉を残している。申し送り・回覧シートなども活用し職員間で情報共有し、日々の変化に気付くことが出来るよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族や医療との連携、理学療法士との協同があり、福祉用具や運動器具など柔軟な支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	チラシ箱を作り、幼稚園や地域などへお届けする活動も、コロナ渦で参加交流は出来ていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	おおあさクリニックとの連携体制は整っている。体調の変化に合わせて医療連携を取り、ご家族とも密に連絡を取り、適切な外部医療も受けていただいている。	月に2回提携医療機関の訪問診療があり、専門医への受診がある方は家族の対応で行っている。週1回の訪問看護で24時間体制の適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回のナースラウンドや、24時間体制で相談できる体制が整えられており、医療からの指示で適切な対応が出来ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、資料を作成し情報提供している。入院中も入院状況を把握し、退院後のケアについても適切なケアが出来る様に検討をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	看取りに関しては入居契約時に説明し同意を得ている。独自の看取り冊子は常に目に見える場所にあり、また看取りの勉強会などを通して質の高い支援ができるよう努めている。重度化した場合は、主治医が説明し再度意向の確認をして対応している。	多くの職員が看取りの経験があり、医療処置や希望がある際は多施設への転居にも応じている。実施の際は連携医とも密に連絡を取りながらチームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月事業所会議で、緊急通報訓練を行っている。その他に緊急時訓練や勉強会で緊急時の対応を勉強している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	普段から災害備蓄を整えている。災害対策のマニュアル種地の為のミーティングを開催した。火災と自然災害の訓練を定期的実施している。コロナ渦で地域との協力体制は築けていない。	職員全員が夜勤帯の訓練ができるよう毎月研修・訓練を実施している。2~3カ月に1回の避難訓練も実施。コロナにより中止となったが、炊き出し訓練等も予定されている。	協力連携施設である老人福祉施設・老人保健施設と日々の交流や、災害時の避難方法などについても共有しておくことで、より一層の安心に繋がると期待する。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人内の研修や事業所内研修で接遇を学んで対応している。生活歴をもとに、その方に合わせた言葉選びに努めている。	スピーチロックとならないように定期的に接遇研修、訓練を実施し職員間でも好事例等の共有を行いながら対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お好みの飲み物を選んで頂いたり、洋服を一緒に選んだり、自己決定の機会を意識して作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	生活ペースを把握し、集団生活の中で可能な限り、個人の希望に沿って暮らせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人からの希望を聞き取り一緒に買い物へ出かけ好みのおしゃれが出来るよう支援した。ご家族持参の衣類などでおしゃれを楽しんでもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍で外食に出かけることが出来ていない。 事業所内の行事で調理に参加してもらい、一緒に楽しむことが出来た。 普段から片付けは一緒に行っている。	メニューと食材は外部委託で職員が調理し行事食なども工夫している。外食はコロナ禍により控えているがお寿司を取ったり、夏には外のテントでお茶飲みをするなど、食事を楽めるよう工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好みをお聞きし、提供に努めている。 生活シートの記録をもとに水分摂取量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、お一人お一人の口腔状態の把握に努め必要に応じ介助させていただいている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	お一人お一人の排泄パターンを生活シートから読み取り、失敗の無いように声掛けトイレへお誘いしている。	排泄記録簿の活用と利用者の仕草などでトイレの声かけ実施している。移動自立の方も見守りや確認等が必要な方がほとんどであるが、おむつからトイレ排泄に移行できた方がいるなど自立に向けた支援を継続している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲み物・運動・ホットパック等、腸が動くための工夫をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	ほぼ午前中に入浴して頂いているが、ご希望により午後にする、翌日にするなど、柔軟な対応がある。	週に2回、タイミングに合わせて入浴を楽しめるよう曜日には縛りなく、午前・午後など柔軟な対応により個々に沿った支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡での休息や、お一人でゆったりできる時間が確保できるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局での薬管理(服薬管理指導)をもと、与薬支援している。薬の情報は全職員理解できるように説明書きが目にする事が出来るようにしている。 臨時薬処方の際は薬情報の共有が速やかに行えるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自ら「手伝うよ!」「何かすることある?」と声掛けくださる。「頼まれなくなったら張り合いが無くなる」と話される。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出がままならず地域の協力を得るまでには至っていない状況。 玄関先での外気浴と、ご家族対応での受診外出のみとなっている。	少人数で近くのコンビニや公園に散歩に出かけたり外気浴をすることができている。おまんじゅうなど食べたい物や肌着を買いに行きたいと希望があった際は職員と外出を実施するなど支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の入居者様は職員と買い物に出かけたが、ほぼご家族や職員が買い物代行をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一部の入居者様はご本人の携帯を持っている。 ご希望に応じご家族へ電話を掛けるお手伝いや、かかってきた電話を取り次いでいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンを開け日の光を感じたり、窓を開け外気を感じたりできるよう配慮している。 季節ごとの飾りつけで明るい共用空間の工夫をしている。 場所の混乱が無いように、貼り物で場所を示している。	廊下や浴室・トイレなどの空間を広くとられており居室や共有スペースには光が入り明るい。各階に3台ずつエアコンの設置があり温度も適切に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	TV前にソファを設置。ゆったりと過ごすスペースとしているが、食席で集まり会話されることが多い。 お一人になりたい時は居室で過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具などを使用されていたり、後かっ族の写真や、ご家族からのプレゼントを飾ったりされている。	全部屋にクローゼットが設置されており、ベッドは各自に好みの物の持参をお願いしている。 なじみの物や写真が飾られており居心地良く過ごせるような工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所が分からず混乱されることの無いように、表示をしている。 台所内の収納や洗濯ものを出す場所を覚え自ら「出来ること」が増るよう支援している。		